

日本医科大学千葉北総病院は開院 30 周年を迎えました 地域の先生方とともに 一継承と発展を

日本医科大学千葉北総病院 院長 **別所 竜蔵**
(べっしょ りゅうぞう)

日本医科大学千葉北総病院は、1994年(平成6年)に開院し、本年で30周年を迎えることが出来ました。今日まで当院を支え、ここまで育てていただいた関係者ならびに、連携医療機関の皆様には心より御礼申し上げます。

1994年1月26日、強固な地盤を有する北総台地の上に59床(3階東病棟53床、集中治療室6床)にて開院し、診療を開始しました。当初、行政(千葉県印旛村)と本学で共有した「21世紀の医療学園都市を目指して国際性にも対応しつつ、地域の中核病院を目指す」との基本構想のもと、当時全国で唯一の「村」にある大学病院のスタートでした(2010年3月に印西市、印旛村、本埜村合併により新印西市へと移行し、現住所は印西市)。1996年には千葉県災害拠点病院に指定され、2001年には全国に先駆けて当院を基地病院としたコードブルーの原点である「千葉県ドクターヘリ事業」が開始されました。2002年には最寄り駅「印旛日本医大」駅の開業がありました。2015年には「地域がん診療連携拠点病院」に新たに認定され、同年厚生労働省「外国人患者受入れ環境整備事業」の補助金モデル事業「医療通訳拠点病院」に選定されました。現在認定されているJIH(Japan International Hospitals)推奨病院の基盤として、大きな役割を果たしました。2018年には2階西病棟を救命救急センターの重症病棟へ改築し、それに伴い26床を減床しております(600床→現574床)。

2020年4月から私が六代目院長を拝命したのですが、その際に一人一人の患者さんに全職員が真摯に向き合うこと、病院での一つ一つの問題点に全職員が丸丸となって対応することを念頭に、院長の病院理念として「ALL for One」を掲げさせていただきました。同時にその時期は、すでに新型コロナ感染症の厄災が世界的に蔓延し始めているところで、4月7日には当時の安倍晋三総理大臣が「緊急事態宣言」を発出しました。諸先輩院長の華々しいご活躍を存じ上げていた若輩の私にはとんでもない日々の始まりとなり、正直暗澹たる気持ちに陥っていました。しかし、諸先輩方の築き上げた北総病院はそんなにやわなものではなく、医師や看護師、医療スタッフ、事務局が一致団結し、真摯にコロナ禍に対応してくれたお陰で、なんとかこの厄災を乗り越えることが出来ました。まさしく「ALL for One」の精神で新型コロナウイルスに立ち向かってくれたのです。コロナ禍期間中には、日本私立医科大学協会の調べで、加盟30大学84病院の中でコロナ重症患者受け入れ診療数は全国第二位(東日本第一位)と顕著な実績を積み、加えて2021年10月には念願の「地域医療支援病院」に認定されました。また、米国Newsweek社による第三者評価ともいえる”World’s Best Hospitals”に2021年より2023年に渡り3年連続での認定をいただきましたことは、院長としても望外の喜びでした。

院長就任後も、開院以来使用し続ける老朽化した高額の医療機器の最新版への更新も順調に進めることが出来、全病棟のリニューアル工事も昨年3月には終了しました。このコロナ禍という猛烈な逆境においても、今後の病院の機能向上に伴う地域医療への更なる貢献として、2020年10月にロボット支援手術機器のda Vinciを導入し、またその後の患者数の増加に伴い、手術待ち患者さんの待機時間が伸びてきたことから、2022年12月にはさらに2台目を導入し、千葉県下の大学病院では初の2台体制を確立し「低侵襲ロボット手術センター」を開設、最近までに累計700症例を達成する勢いとなっております。

当院は現在、「千葉県災害拠点病院」であると同時に、三次救急医療を担う「高度急性期医療の拠点」として、救急救命センター、循環器センター（集中治療室、循環器内科、心臓血管外科）、脳神経センター（ストロークケアユニット；脳神経外科）を中心に最先端で垣根のない重層的な診療を行っており、また「地域がん診療連携拠点病院」として院内のがん診療センターを中心に各種癌の診療に積極的に対応しており、生命予後の改善のみならず、生活の質向上にも全力を尽くしております。さらに近年の急速に進行する高齢化社会における大きな課題の一つである認知症に対しても、2020年千葉県より地域型の「認知症疾患医療センター」に認定されました。認知症の診断と治療を迅速に行うために、2024年5月、院内にPET-CTを導入し、運用を開始しております。

このように、開院30年目を迎えた病院としても、最新の設備や医療機器の絶え間ない更新を行い、そして何よりも代えがたい高度な医療技術と強い診療科間の横の連携を有する医師団に加えて、看護職員、医療スタッフの優れたホスピタリティを有する当院の今後の益々の発展のため、職員一同より一層の精進を積み重ねていくことをお誓いいたします。今後とも皆様方からの変わらぬご厚誼とともに、より一層のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、伏してお願いを申し上げます。



1 循環器内科

革新的な新デバイス リードレスペースメーカ

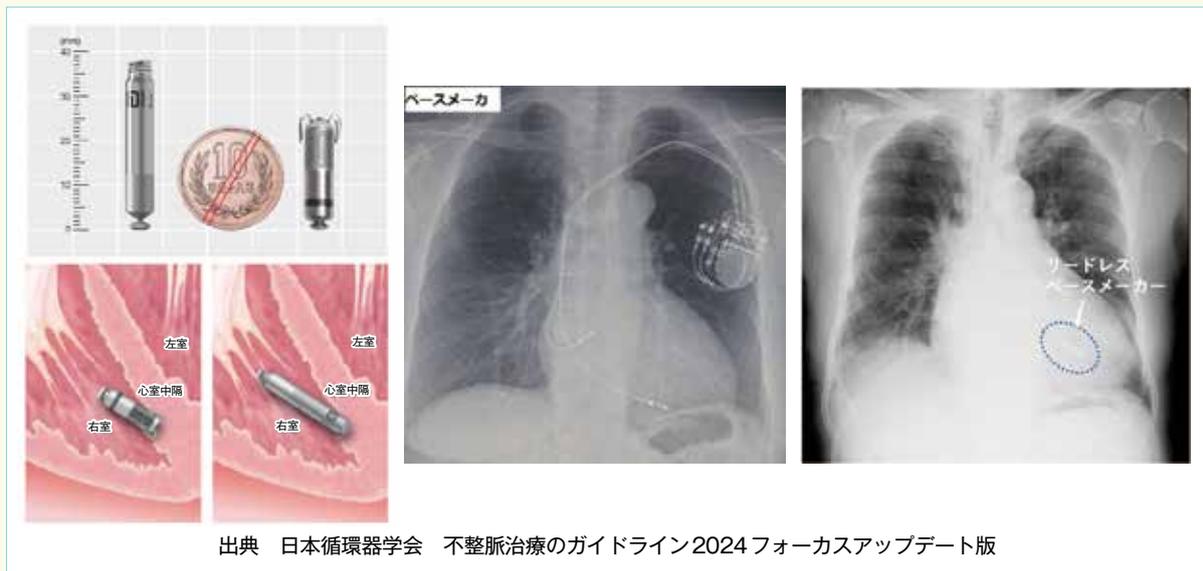
助教・医員 小林 典之 (こばやし のりゆき)

パソコン、テレビ、携帯電話など私たちの身の周りには様々なデバイスがありますが、技術の進歩により日々、小型化が進んでいるのは皆様も実感されていることでしょう。我が国でも、徐脈性不整脈に対する標準治療としてペースメーカ植え込みが広く行われていますが、ペースメーカもその例外ではありません。

ペースメーカの歴史は古く、1932年に米国の生理学者アルバート・ハイマンによって開発されました。開発当初のペースメーカは電気刺激装置を体外に置き、体内に刺激コードを入れるタイプで、実用化にはほど遠いものでした。現在使用されている小型電池による完全体内埋め込み型のペースメーカは、1958年のスウェーデンのルーン・エルムクピストラによって開発されました。当時1回の充電で電池寿命は15~20分でしたが、水銀電池やリチウム電池の進化によって電池寿命は延びていき、現在では小型化も進んで耐用年数は5~12年になっています。以降、ペースメーカ本体を胸部皮下組織の下に植え込み、リード（電線）を心内に留置するという形状は数十年大きく変わることはありませんでした。

しかし、メドトロニック社より全く新しいリードレスペースメーカが開発され、本邦でも2017年に保険適応となりました。リードレスペースメーカは文字通りリードが存在せず、本体を直接心内に留置するペースメーカです。リードレスペースメーカの利点はデバイス感染のリスクが小さいこと、整容面に優れること、鎖骨下静脈へのアプローチ困難な症例にも植え込み可能なこと等が挙げられます。若い患者様ですと、従来型のペースメーカは摩耗によるリード断線が課題でありましたが、近年では従来型ペースメーカ植え込みまでのブリッジとして、リードレスペースメーカが使用されるケースも増えてきております。

リードレスペースメーカにも課題はあり、従来型のペースメーカに対し完全に優越性があるわけではありませんが、当院でも適応条件を満たす患者様には積極的にリードレスペースメーカ植え込みを行っております。徐脈性不整脈の患者様がおりましたら、当院にご相談頂ければと存じます。



2 外科・消化器外科

低侵襲で精緻な膵臓手術を手掛けております

助教・医員 川島 万平 (かわしま まんぺい)

当院消化器外科は、地域がん診療連携拠点病院としての責務を全うすべく、ヴィンセント3D画像解析システムの活用やシミュレーションソフトウェアLiversimによる術前の詳細な解剖把握、そしてダヴィンチ・ロボット支援手術など最新の医療技術を用い、特に「がん」に対して根治性と安全性、さらには低侵襲性と機能温存を図った、より精緻で質の高い内視鏡外科手術（腹腔鏡下手術）を行ってまいりました。2023年度より国内有数の低侵襲膵切除経験を誇る中村慶春が部長に就任し、現在膵疾患に対しても積極的に低侵襲手術を行っております。これにより食道・胃・大腸・肝・胆・膵と消化器外科領域すべての臓器に対して、高度な手術治療を提供できる体制が整いました。

近隣御施設の諸先生方のお力添えもあり昨年度の膵切除症例数は倍増し、厚生労働省が定めた腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術実施施設基準（①膵臓手術を年間50例以上

施行していること、②膵頭十二指腸切除術を年間20例以上施行していること、③腹腔鏡下膵切除術を20例以上実施した経験を有する医師が常勤すること）を充足するに至りました。現在、千葉県内の医療機関で上記施設基準を満たしている施設は、当院を含め5施設のみになります。高度な技術が要求される腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術ですが、本術式のパイオニアであり、前任地で多数の執刀経験を持つ中村をはじめ、低侵襲膵切除術に熟練したスタッフが中心となり、安全性を最優先に執り行っております。

地域完結型の膵疾患治療を実現するためには、近隣御施設の諸先生方のご協力が不可欠です。当科としましては医局員一丸となって先生方や患者さんのご期待に沿えるだけの確かな技術を提供してまいります。膵疾患が疑わしい患者さんがいらっしゃいましたら当科にご紹介頂けますと幸いです。



LPD術中写真



3 歯科

健康保険適応の歯科インプラント(広範囲顎骨支持型装置)治療

助教・医員 木下 陽介 (きのした ようすけ)

今日、歯科インプラント治療は、失った咬合を回復させる治療法の一つとして定着しており、患者さんの生活の質の改善に大きく貢献しています。

一方、歯科インプラント治療は健康保険適応範囲外の治療であり、医療費が高額になってくるという問題が存在します。

2012年度より、健康保険適応歯科インプラント治療が、「広範囲顎骨支持型装置」という名称でスタートし、その後、数回の改正を経て、徐々に適応範囲が拡大されてきました。

2024年度現在の対象は以下のとおりです。

- (1) 腫瘍、顎骨嚢胞、顎骨骨髄炎、外傷等による広範囲な顎骨欠損もしくは歯槽骨欠損症例またはこれらが骨移植等により再建された症例。
- (2) 外胚葉異形成症等または唇顎口蓋裂等の先天性疾患であり、顎堤形成不全であること、あるいは多数歯欠損。
- (3) 6歯以上の先天性部分無歯症または、前歯および小臼歯の永久歯のうち3歯以上の萌出不全。

以前は顎義歯や義歯しか治療選択肢がなかった前記症

例患者さんに新たな選択肢が加わり、大変有意義な制度であると考えます。

当院は、広範囲顎骨支持型装置埋入手術施設基準届出保険医療機関となっており、上記対象症例・患者さんに健康保険での歯科インプラント治療を提供できます。

当科では、歯科大学附属病院で、長く歯科インプラント科長を務め、顎顔面インプラント専門医・指導医、口腔外科専門医・指導医である笹倉裕一の指導のもと、日々より良い治療を提供できるよう医局員全員でつとめております。

上記対象患者さんを診察されている医療機関の先生方には、当科にご相談いただければ幸いです。

また、当科では、通常の歯科インプラント治療もおこなっており、特に、歯槽骨の萎縮により顎骨量が不足している症例に対し、様々な骨造成術をおこない、骨量を回復しての歯科インプラント治療を多く手掛けております。

このような骨造成術を伴う歯科インプラント治療についてもご相談いただければ幸いです。

最後に私たちが行っている広範囲顎骨支持型装置による咬合回復を行った治療例を供覧します。



写真1 下顎骨区域切除後、チタンメッシュレー法を用い、腸骨細片骨で再建した下顎骨へのインプラント埋入



写真2 生理的な口腔形態に近づけるため口蓋粘膜移植による口腔前庭拡張術施行



写真3 最終補綴物装着



写真4 最終補綴物装着時の口腔内写真

4 医療安全管理部

医療安全管理部における事務の業務について

神崎 敦史 (かなぎき あつし)

今年度4月より医療安全管理部の事務として異動してきました神崎と申します。医療安全と言うと漠然と院内の安全管理を行っているというイメージとなり、具体的な業務内容まではわからないのではないのでしょうか。医療安全管理部は、患者さんに安全で安心な医療を提供し、院内職員がそれぞれ力を合わせ安心して働くことのできる環境をつくるために、多岐にわたる支援を行っております。今回は事務目線でご紹介いたします。

医療安全管理部では、医療安全環境に関する改善案や報告を行う場として、医師や看護師、薬剤部、ME部、他の医療従事者が集まるミーティングやカンファレンス、委員会などを毎週1回行っています。事務は資料作成や院内への周知を担当しています。年2回行っている全職員対象の医療安全講習会では、事務は受講状況等の管理をしており、各部署のリスクマネージャーと連携を取り、全職員の受講率100%を目指し活動しています。

当院では「コード北総」と呼ばれている緊急要請への対

応振り返りやそれに伴う業務改善を行っており、事務は現場での聴取や記録の整備を行っています。そのような現場において質の高い救命処置を職員が実施できるように、全職員を対象にレベルに応じた蘇生教育(PUSHコース・ICLS-BLSコース・ICLSコース)を行っています。ここにおける事務の役割は受講者の管理や会場準備等です。

その他には、院内のインシデントやアクシデントが起こった際の報告管理や調査、集計を行い、再発を防止するために資料の作成をしています。加えて、患者さんへの同意・説明文書の管理確認を行うインフォームド・コンセント委員会の事務局も担当しています。事務は、その資料準備や文書管理、電子カルテ内の格納手続きを行っています。

上記以外にも、多岐にわたる業務を担当しています。事務が直接医療を行うことはありませんが、医療安全のための活動を通し、医療を支えていけたらと考えております。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

地域連携医療機関のご紹介

vol.15

日本医科大学千葉北総病院では、地域の医療機関との相互連携を一層強固にし、医療を必要とする患者さんのニーズに応え、適切で切れ目のない医療提供の実現を目指しています。このコーナーでは、当院の連携登録医としてご協力いただいている先生方を紹介してまいります。

医療法人社団威風会 栗山中央病院

病院長 山田 浩史先生

診療科目 ▶ 総合診療、総合内科、脳神経内科、老年内科、頭痛外来
パーキンソン外来、もの忘れ外来、内科、循環器内科
糖尿病内分泌内科、外科、消化器外科、整形外科
泌尿器科、皮膚科、形成外科、耳鼻咽喉科
リハビリテーション室、透析センター、人間ドック
健診センター

診療時間 ▶ 受付時間 午前 7:30 ~ 11:30 午後 0:00 ~ 4:30

休診日 ▶ 日曜日・祝日



住所：〒284-0027 千葉県四街道市栗山906-1
TEL：043-421-0007 FAX：043-421-0460
URL：https://www.kuriyama-hp.jp/index.html

1. 貴院の特徴を教えてください

当院は、藤平威夫名誉院長が開設し、今年で40年目を迎えました。92床の急性期病院であり、介護老人保健施設「栗の郷」を併設しております。病院理念である「清く・優しく・温かく」をモットーに地域の皆様の健康を守るため、スタッフ一同で努力しています。診療科目は上記の通りですが、名誉院長をはじめ、どんなことでも気軽に相談できる総合的な診療を心掛けています。専門外来として「頭痛外来」「パーキンソン外来」「もの忘れ外来」を設け、片頭痛に対するCGRP関連抗体薬による治療、パーキンソン病などの神経難病、認知症をかかえる高齢者医療にも注力しています。とくに生活機能に支障がある場合は、地域としての支援を行います。これまでの新型コロナウイルス感染症の治療経験から、今後の新興感染症への対応も準備をすすめていきます。そして当院の方針として「救急および手術件数倍増計画」を掲げ、救急診療、整形外科、消化器外科の手術を積極的に行っています。また医療安全活動を強化し、「身体拘束最小化計画」「接遇向上計画」により「安全、安心、信頼される優しい病院」を目指してチーム医療を推進しています。

2. 総合病院と大学病院で診療の違いはありますか？

大学病院に勤務していた頃は、自分の専門性を磨くことに専念していましたが、現在は透析診療も含めてあらゆる分野に携わることができるようになりました。当院は、患者様のより身近な存在でありたいと思いますので、気軽にご相談いただければと思います。大学病院への紹介を含めて、患者様の多岐にわたる問題を総合的に対応したいと考えます。

3. 地域医療連携についてはどのようにお考えですか？

患者様・ご家族を中心として各医療機関や施設などが緊密に連携して、それぞれの役割を果たすことが重要と考えます。その中で、大学病院での診療が終了した患者様を受け入れる後方支援も当院の役割であると考えます。

さらに当院での入院治療を継続しても、生活機能の低下により直接ご自宅に退院できず、特にリハビリテーションを必要とする場合は『栗の郷』への入所などもご提案できます。

4. 今後の千葉北総病院に期待することはありますか？

大学病院は、臨床のみならず研究、教育機関でもあります。これからの地域医療を支える人材の育成が重要と考えます。地域連携の会などで顔の見える関係を深め、この地域の活性化にお力添えいただきたいと思います。

5. その他何かありましたらお願いいたします

当院の診療にご協力いただいている先生方、いつも大変お世話になり深謝申し上げます。今後とも何卒よろしくお願いいたします。



外観



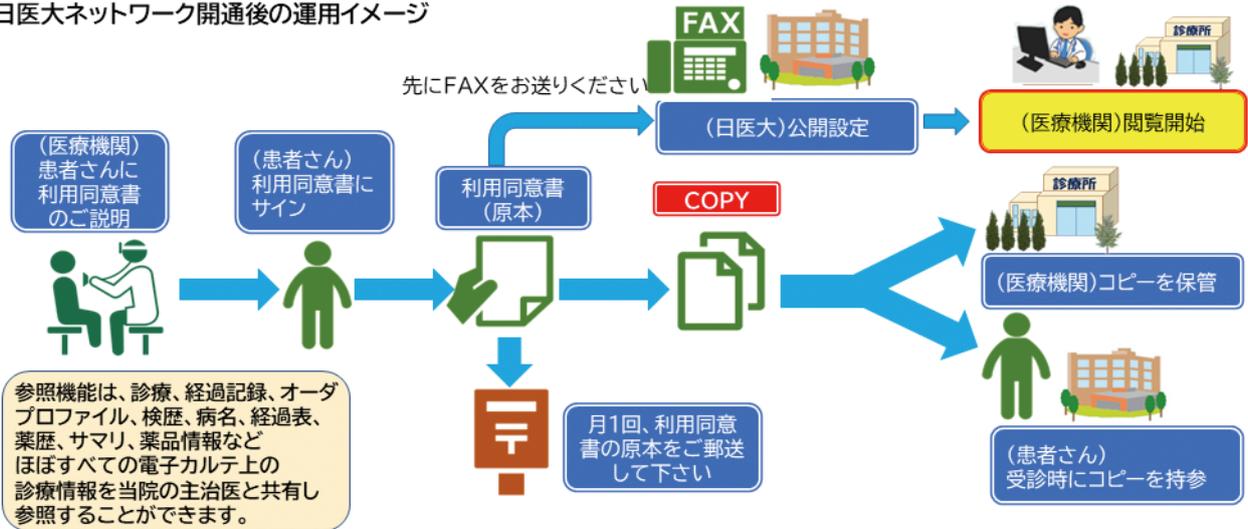
待合

当院では、地域連携システム(日医大ネットワーク)より
診療所や病院から直接病院の電子カルテを参照頂けます。



連携いただく施設には、一般のインターネットアクセスの可能なパソコン環境(Windows)があれば、特殊な装置を導入することなく地域連携システムに接続でき当院にご紹介いただいた患者さんの情報をほぼリアルタイムに共有できます。ネットワークの開通には当院のスタッフがお伺いし設定致しますので、どうぞお気軽にお声がけください。

日医大ネットワーク開通後の運用イメージ



日本医科大学千葉北総病院の理念

I 日本医科大学の教育理念と学是

教育理念：愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の育成

学 是：克己殉公

(私心を捨てて、医療と社会に貢献する)

II 病院の理念

患者さんの立場に立った、安全で良質な医療の実践と人間性豊かな良き医療人の育成

III 病院の基本方針

1. 患者さんの権利を尊重します。
2. 患者さん中心の医療を実践します。
3. 患者さんの安全に最善の努力を払います。
4. 救急医療・高度先進医療を提供する指導的病院としての役割を担います。
5. 地域の保健・医療・福祉に貢献するため、基幹病院としての役割を担います。
6. 全ての人のために健康情報発信地を目指します。
7. 心ある優れた医療従事者を育成します。
8. 先進的な臨床医学研究を推進します。

患者さんの権利

1. 人間として尊厳のある安全で良質な医療を受けることができます。
2. ご自身の判断に必要な医学的な説明を十分に受けることができます。
3. 医療の選択はご自身で決定することができます。
4. ご自身の診療に関わる情報を得ることができます。
5. 他の医療機関を受診することができます。(セカンドオピニオン)
6. 個人情報やプライバシーは厳守されます。
7. 児童(18歳未満の全てのもの)は、上記6項目に関し成人と同じ権利を有します。(こどもの権利憲章を参照)

患者さんの責務とお願い

1. ご自身の病状や既往症について、詳しく担当医師にお話しください。
2. 医師の説明が理解できない場合は、納得できるまでお聞きください。
3. 他の患者さんの迷惑にならないよう、院内のルールはお守りください。
4. 医療従事者と共同して診療に積極的に取り組んでください。
5. 当院は医療者育成の使命を担っている大学病院であることをご理解の上、診療の可否を決定してください。
6. 医療行為は本質的に不確実な部分があります。安全な医療のため最大限の努力を払っておりますが、患者さんの期待にそぐわぬ結果を生じる可能性があることをご理解ください。

催し一覧 2024年
7月～10月

8/7 (水)
19:00～

Psoriatic disease up to date

場 所 Web講演会
演 題 乾癬患者の実臨床におけるビンゼレックスの治療効果
乾癬性関節炎におけるビンゼレックスの治療効果
食物繊維イヌリンによる乾癬様皮膚炎の抑制
演 者 日本医科大学千葉北総病院 皮膚科部長 神田 奈緒子
後 援 ユーシービージャパン株式会社
問合せ先 ユーシービージャパン株式会社 免疫・炎症事業部
ストラテジックアカウントマネジメント
千葉・埼玉・関東エリア 小林邦彦
Mail : Kunihiko.Kobayashi@ucb.com
申込み URL : <https://x.gd/etdtg>



9/19 (木)
17:15～18:45

オープンセミナー ストーマケアⅡ

場 所 大会議室
演 題 ストーマ造設する患者へのケア
～応用編：ABCD-Stoma® ケア～
演 者 日本医科大学千葉北総病院
皮膚・排泄ケア認定看護師／看護師長 坂巻 雅美
日本医科大学千葉北総病院
皮膚・排泄ケア特定認定看護師／看護師長 渡辺 光子
後 援 日本医科大学千葉北総病院
問合せ先 看護部 渡辺・坂巻
申込み URL : <https://forms.gle/nNnX1yGtRiuw1zAW9>



10/18 (金)
17:15～18:15

オープンセミナー 排尿ケアⅠ

場 所 大会議室
演 題 排尿自立ケアに必要な基礎知識 ～観察とアセスメント～
演 者 日本医科大学千葉北総病院 皮膚・排泄ケア認定看護師／看護師長 坂巻 雅美
後 援 日本医科大学千葉北総病院
問合せ先 看護部 渡辺・坂巻
申込み URL : <https://forms.gle/g3kigJsZEAKjwXX96>



7/20 (土)
13:00～17:00

オープンセミナー ストーマケアⅠ

場 所 大会議室
演 題 ストーマ造設する患者へのケア ～入院から退院まで～
演 者 日本医科大学千葉北総病院 外科・消化器外科 松本 智司
日本医科大学千葉北総病院
皮膚・排泄ケア認定看護師／看護師長 坂巻 雅美
後 援 日本医科大学千葉北総病院
問合せ先 看護部 渡辺・坂巻
申込み URL : <https://forms.gle/8D41uJnC4KZZuVF3A>



8/8 (木)
17:15～18:15

オープンセミナー 褥瘡ケアⅢ

場 所 大会議室
演 題 褥瘡のある患者の局所ケア ～DESIGN-R®2020を用いて～
演 者 日本医科大学千葉北総病院
皮膚・排泄ケア特定認定看護師／看護師長 渡辺 光子
後 援 日本医科大学千葉北総病院
問合せ先 看護部 渡辺・坂巻
申込み URL : <https://forms.gle/qti3nkVtWxUgZHwJ6>



10/5 (土)
10:00～12:00
13:00～15:00

世界アルツハイマーデーイベント

場 所 印西市文化ホールとオンラインのハイブリット
演 題 認知症があってもなくても住みよいまち (仮)
演 者 ちばオレンジ大使、認知症疾患専門家、日医大オーケストラ
後 援 印西市
問合せ先 認知症疾患医療センター 齋藤



編集後記

当院でもPET検査の運用を開始いたしました。検査費用はやや高額ですが、非侵襲的な癌のスクリーニング検査にご興味のある患者様がいらっしゃいましたら、ご紹介いただけますと幸いです。

(広報委員会 岡島史宜)



本広報誌についてご質問あるいはご意見のある方は下記までご連絡下さい。

日本医科大学千葉北総病院 医療連携支援センター
〒270-1694 千葉県印西市鎌苅 1715
電話 0476-99-1810 / FAX 0476-99-1991
e-mail:hokusou-renkei@nms.ac.jp

編 集：日本医科大学千葉北総病院
広報委員会、医療連携支援センター
印 刷：伊豆アート印刷株式会社
発 行：2024年7月 (季刊誌)